

poly・国語

Multilingual News Views Events for Language Learners 大阪国際大学 語学教育センター

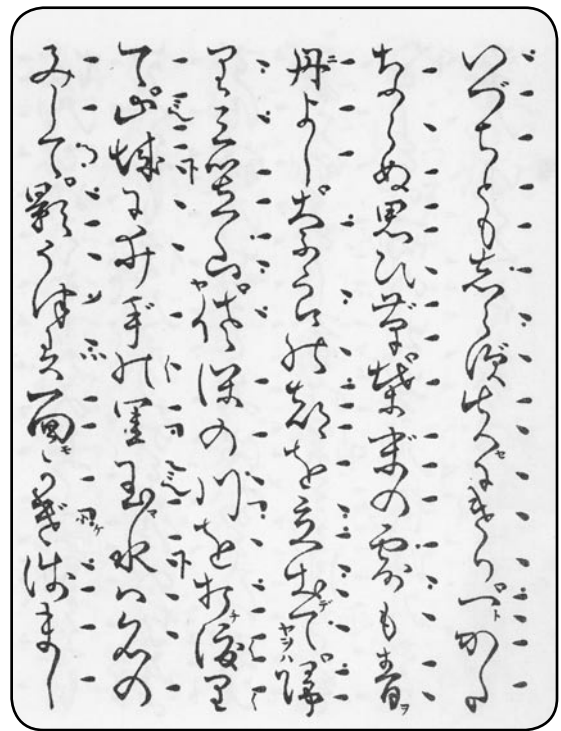
「等身大であること」

サム教育学院 門脇 緒

想像してみてください、あなたが日本語学校の経営者であるとして、これから教師を募集します。どんな点を重要視して採用者を決めますか？経験・知識・技術・人柄… 実際、多くの日本語学校で重要視されているのは、人柄・人間性のようです。人間性といわれてもアバウトすぎて何を求められているのかわからないという方も多いのではないのでしょうか？もちろん、その学校や経営者によって意味するところはそれぞれでしょう。私が日本語教師をしていて思う「日本語教師に求められる人間性」について話したいと思います。

授業で私が最も大切にしていること、それは私自身が学習者から話したいと思ってもらえる存在でいられることです。話す内容は何でもかまいません。「あの映画は面白かった」「彼女にふられた」など、その学習者が本当に思っていることならなんでも。さらに、表現方法も何でもかまわないと思っています。学習者の母語や、媒介語、ジェスチャー… もちろん、日本語を使ってコミュニケーションをとることは大切です。それは教師も学習者もわかっていますし、そのために学習しているのですか

ら。しかし日本語だけのコミュニケーションに限界がある時、学習者は2つのタイプに分かれると思います。一つは、本当に自分が言いたい事とは違うけれど、知っている日本語だけを使って機械的に無難に話す。もう一つは、様々な表現手段を使って、なんとしても自分の考えを相手に伝えようとする。私は後者こそ、コミュニケーションの原点だと思っています。学習者がそういったコミュニケーションを教師にしてくれることは、簡単なようで非常に難しいことです。まず、教師が「この人に何かを話したい」と思われるような存在であること。そして、学習者が「日本語で話さなくては」「間違えないように」「この話題は日本語だと難しいかな…」といったストレスや萎縮をまったく感じないで気軽に話せる雰囲気



古語（謡本「百萬」より）

です。日本語教師に求められる人間性とは、そういった魅力ではないのでしょうか？

先日、前日食べた激辛カレーによって授業中に猛烈な腹痛に襲われた際、私はそのことを初級のクラスのみんに説明しました。日本語と、絵と、ジェスチャーを使って、額に

「等身大であること」

1 ページからの引き続き

いやな汗をかきながら。その時クラスからは様々な反応がありました。「お茶は悪いです。今より痛いですから（腹痛のときはお茶を飲んではいけない、もっと悪くなる）」「早くトイレへ行って下さい」「私がちょっと失礼してもいいですか？お湯を持ってきて、飲んでください（ちょっと教室を出てもいいですか？お湯を持ってきますので、飲んでください）」「かわいそうです」「休みましょうか？（授業を休んでもいいです）」等々。心配そうな表情をしたり、ジェスチャーをまじえたりで、みんなの言いたいことはすぐにわかりました。また、食べたカレーが辛すぎてお腹が痛くなっただけで、これほど大騒ぎになって少し申し訳なくもなりましたが。会話だけ聞いたら、教師と学生の授業中の会話とは思えないかもしれませんし、或いは意味も通じないかもしれません。それでも、教科書の言葉を繰り返すような、正しいけれども無機質な言葉を話すよりもはるかに有意義な会話だと思いませんか。

そんな魅力はすぐに手に入れられるわけではありませんし、努力したらどうにかなるものでもなさそうです。ましてや、どんなに上手に授業用の顔を作って魅力的な先生を演出しても、学習者にはすぐに演技だと読み取られます。言葉でのコミュニケーションに限界があるからこそ、学習者は教師のちょっとした表情や、些細な動きにも敏感です。そんな相手に演技は通用しません。結局のところ、「今現在の等身大の自分をストレートに表せるかどうか」が魅力ある教師かどうかだと感じています。「教師」というと、「与え手」というイメージがありますが、コミュニケーションはあくまで相互通行です。教師から学習者へ正解だけを伝える授業なんてお互い窮屈で退屈ですよ。まるで、必要な栄養だけを与えられて効率よく大きくされて出荷されるプロイラーみたいに感じてしまいます。教師が自分のミスも弱点もストレートに表現できたら、学習者も必ず何か自分なりの反応を見せてくれます。それが日本語でうまく言えなくても、そこがコミュニケーションのスタート地点だと思います。学習者が本当に日本語で何か言いたいと思ってくれたら、後は自分で学習して習得するようですよ。たとえるならこちらは地鶏といったところでしょうか。教師が教える内容以上にたくましく様々なストラテジーを使って、上達していきます。教師は、学習者がそのようにたくましく日本語に取り組めるように、モチベーションと勇気を持てるように、背中を押してあげることができる存在です。そのためには、肩肘張らずに素直に自分を表現する魅力が大切だと思っています。

韓国

山田 菜緒、国際コミュニケーション学科

私は、昨年の三月の一月間、日本語教員アシスタント（TA）として韓国へ行ってきました。私にとって韓国は初の海外で、一月間滞在すること、そして、韓国の学生と仲良くなれるかなど、少し不安がありました。終わるころにはもう少しここにいたいなあとと思うほど楽



韓国滞在時の山田さん（左）



しく、よい経験となっていました。韓国へはアシスタントとして行ったのですが、現地で出会った先生方、多くの学生との交流を通じて、本当の韓国、生の韓国に出会い、逆に学ぶことが多くありました。

私が韓国にいた三月は竹島問題が一番高まっている時期でした。学生からの質問で、「竹島問題についてどうおもいますか？」と聞かれた時、私は何も答えられず恥ずかしい思いをしました。韓国の間でこれだけ話題となっている問題を何も知らずに韓国に行ってしまったことを後悔し、このことで私はもっと世界のことを知りたい、知っておかなければと思い、世界観が少しひろがった気がしました。さらに韓国との学生とも友達になることが出来ました。休みの日にはみんなとプサンでおいしいと評判の焼肉店や、水族館などいろいろなところに連れて行ってもらいました。滞在中に、一泊二日の親睦会にも参加させてもらい、日本、韓国で流行っている物、人、文化などを話したりと、友達の輪が一段と広まった場となりました。そこで、韓国で少し驚いたことが、「おごる」ということです。日本では、友達間でジュースをおごるという程度のことはあっても、韓国ではその場のお勘定をすべて割り勘なしで一人で払います。もう一つは、目上のひとにとっても礼儀正しいという点でした。例えば、決して目上の人の前ではタバコを吸いません。今、日本の若者には欠けている点だと思うので、私達も見習っていかなければと思いました。

昨年の夏には、韓国から友達が来日し、京都の観光案内をしました。彼らが日本の文化に更に興味を深めてくれ、文化交流の役に立てたことを大変うれしく思いました。

Perfect Tea

John Alan Smith, Intensive English Program

English tea is a great drink. It wakes you up in the morning and refreshes you in the afternoon. It is very popular in Japan, and you can see many kinds in the supermarket. Having been a veteran of enjoying tea for 40 years, I would like to share some secrets of making the perfect "cuppa." Read through my list of tips and you could very much improve the quality of your tea making.



John Smith and Michelle Hall

1. It is very important to use fresh water from the tap every time. Don't boil water that has been in the kettle standing for a few hours. Especially not overnight!
2. Use very hot water. Some people stop boiling the water at the first sight of steam. No! Let the kettle boil!
3. Use a teapot! You will get better results from having a pot with a lid on it. If you use a teacup, put the saucer on the top to cover it. Leaving a cup without a cover lets all the flavor escape. It is an English tradition to warm the teapot first. Pour boiling water into the pot and then discard. Now you can add the tea. After that, the hot water.
4. The finer quality tea, the more delicious it will be. While you can settle for Lipton, you will be more successful with more prestigious brands. A trip to Ikari supermarket, import shops, or department stores will get you a great superior choice. I personally like English Breakfast or Assam blend. In the tea world you get what you pay for. But if you want to use cheaper tea, the points in this article will change the taste for you.
5. Add one spoon of tea or a bag "for the pot."

So if there are two of you, you need three bags. Trust me-it works!

6. Leave the tea in the pot for five minutes. People often remove the tea bag after just a minute. The tea hasn't had a chance to leave the bag yet! Also stir the tea or tea bags after two minutes to help the flavor flood out. Then put the lid back on.
7. It is now time to pour the tea. There is much debate about whether putting milk in first or adding to the tea is correct. I have always believed that putting milk in first is the right way. It is a beautiful sight to see the tea emerge from the milk as you pour. Enjoy!

I hope these pointers will be of help to you. Try them and see if makes a difference. Who knows? Perhaps one day you may have to make a cup of tea for an important guest. Satisfying your visitor by showing your attention to detail could change your life. Before that day, enjoy the benefits of this truly wonderful drink.

GLOBAL MIND WITH LOCAL ACTIONS

小嶋 貴仁、経営情報学部

The Earth is now in danger. Trees which are essential to animal life are being cut down and being destroyed in the name of development. The amount of fossil fuel used is on the increase because of population explosion, popularization of automobiles and electric appliances and industrialization of developing countries. We also face other environmental problems, such as ultraviolet radiation. If people do not take any measures to stop them, these problems will become all the more grave in the future. It is difficult, in fact, to solve these problems. In addition to that, it is also no easy task to maintain even the status quo.

Many countries rose up to solve these problems because it is only too clear that human activities are responsible for them. On February 16th, 2005, The Kyoto protocol went into effect. This protocol was adopted in the 3rd session of "Conference of the Parties" (COP3) for the purpose of deterring global warming, due to the increase of greenhouse gases in the atmosphere. Developed countries have to reduce their emission of greenhouse gases to the standard



小嶋 貴仁

of 1990, some time between 2008 and 2012 (Japan 6%). We have to attain this goal, and we must protect the global environment because it is our duty.

In Japan, Japanese are undertaking some countermeasures against global warming, such as watering the streets. Especially, a dressing style has come into fashion this summer. It is called "Cool

Biz". "Biz" means business. "Cool Biz" is a fashion which suggests taking off tie and jacket. Many office workers are dressed like this. It is a great thing! Japanese tend to keep up an old custom which consists of wearing tie and jacket in the presence of customers. This custom of long standing cannot be done away with easily, but Japanese are changing their minds. I think that we need courage to do such a thing.

Environmental destruction is a matter of life and death for all creatures on the earth. So it is our duty to make every possible effort to protect the global environment. Therefore, Japanese shouldn't stop at the level of these small changes. We should go forward and embrace "Global Mind with Local Actions".

NOTE: The goal of the essay contest is to challenge students to express their opinions in their own words about an important topic. In order to insure that the students are expressing their own ideas in their own words, the essay contest rules prohibit students from asking others to correct their compositions. This means that the essays reflect the true ability of each student. The winning essay (see above) contains a number of minor English errors, which we have left in to preserve the originality of the work. When you read through the essay, we ask that you try to overlook any errors that you may find and try to appreciate the thoughts and feelings expressed by the author.

Brad Visgatis, LEC Director

個性豊かな英語

服部 真麻 国際コミュニケーション学科 (卒)

オーストラリアのゴールドコーストは、広い空と真っ青なビーチが続き、時間がゆっくりと流れている素敵な街だ。私はビーチが目の前にある英語学校で約4ヶ月間英語の勉強をしながら、学校の近くの家にホームステイをした。この短期留学を通して感じたこと、得たことは数え切れないほどある。その中一つに、コミュニケーションによって知った、英語の発音の違いがある。

オーストラリアで生活を始めて数週間は、オーストラリア英語になかなか馴染めなかった。学校で習っている英語や、以前ニュージーランドへ行ったときに聴いた英語とは、何となく発音が違うということは分かるが、はっきりした違いも分からず、簡単な日常会話に慣れるまで苦労をした。そうして生活しているうちに、会話の中で繰り返し聴く言葉やジェスチャーを通して、互いに言いたいことが伝わるようになってきた。様々な会話を重ねると、今まで自分が知っていた英語との具体的な違いが見えてきたからだ。例えば、"day" をそれまで私が知っていた英語では「デイ」と発音するが、オーストラリアでは「ダイ」と発音する。他にも "eight" 「エイト」を「アイト」など、「エイ」という発音がオーストラリアでは全部「アイ」に変わる。このように聴き慣れてくると、日本の方言と同じで普通に会話ができるようになった。

学校では15歳の少年や主婦など、幅広い年齢の人々が世界各国から集まって勉強をしている。1週間という短い期間から、1年、2年という長期間まで、生徒の入れ替わりも多く、たくさんのお会いがあった。そして、ここでも国による英語の違いを感じた。日本人が "M" と "N" の発音が苦手なように、ブラジル人は "L" と "R" の発音が苦手なようだ。スペインの友達は、"you" を「ジュー」

と発音していた。そのため、友達のコカさんは「ジュカ」と呼ばれていた。授業中、Luis という友達の名前をプリントに日本のひらがなで書いて、「ルイス」と書いて読んで教えてあげると、「Luis の "s" は "su" (ス) じゃないから、違う字は無いのか」と言われ、日本の友達と一緒に「日本語には "s" だけを表す文字がないの」と一生懸命説明をしたことを覚えている。このように、様々な国の人が一つの教室で過ごす、自分の国の言語からできる独特の英語に触れることができる。人の性格と同じで英語の発音の違いも個性だと思う。それぞれの英語の特長を知り、受け入れることは、コミュニケーションの第一歩だと感じた。お互いが相手を受け入れようと努力しながらする話は、一言ひとことに気持ちがこもり、とても楽しい。

この短期留学で得たことの中で一番良かったと思うことは、様々な人生に出会えたことだ。プロサーファーを目指している中学生、女性パイロットを目指している主婦、世界中を旅している人など、オーストラリアで出会った人はたくさんいて、それと同じ数だけ違ったスタイルの生き方と夢を知ることができた。それぞれの人生の中で、英語を話せるようになるという同じ夢を持って、同じ時間を共有できたのはとても素敵なことだと思う。夢を持ち続け、人との出会いを大切にできる人生でありたい。



服部

Continued from Page 8, *Changing Career Trends in Japan*

ing population of NEETs and temporary workers is the government's new experiments. For instance, they decided to spend 81 billion yen on NEETs to help them get into society. Young Job Spot in Adachi Ward, Tokyo, holds a seminar where jobless young people can practice manners for when they answer by telephone professionally; needless to say, it is an advantage for NEET. Nevertheless, there is a drawback for elderly people. BBC NEWS stated that the Japanese government had urged the creation of more jobs for elderly people for the purpose of saving on the national pension. It is mentioned that around 40% of younger people refuse to pay pension, and there is less help for older

people to spend their life; therefore, they have to work to get off every day even though they have already retired.

Obviously, the problem of increasing unemployed young people modified Japanese business style. More and more young people can choose the way of earning money in short time without paying insurance or stop working; therefore, the government started to plan to let them back to society. It has been favorable for them to live more flexibly. However, they have started to pull the society down. It is certainly not wrong for young people to do what they want to do, yet it's about time for them to have a clear consciousness that they are the breadwinners for Japan today.

Waiting for Harry

Karin Sandler, Georgetown University

Ever since the first Harry Potter book, "The Philosopher's Stone," I have waited with eager anticipation for the next book in the series. At the midnight release of the sixth book, *Harry Potter and the Half-Blood Prince*, there was a big party at my local booksellers. I decided to go and join in the festivities. Hundreds of people jammed inside the spacious bookstore. Never in my life had I seen an American bookstore so crowded! There I saw costumed children and adults alike eagerly waiting in line. The staff greeted the customers and gave them a special wristband with a number. Although I had arrived soon after midnight, more than a hundred people had arrived before me thus earning them a spot closer to the head of the line. I didn't mind though; I enjoyed the anticipation.

For me, it was thrilling to see so many people getting excited about a book. These people weren't waiting in line for the latest movie, or the newest video game console, or even concert tickets. They were there to celebrate their joy of reading. As an avid book lover and a teacher, this delighted me to no end. I have always enjoyed losing myself in a good

book and it was fun to be around others who had discovered the same pleasure that I had.

As I waited in line for my own copy, I heard children excitedly tell their parents that they were going to stay up all night to finish the book. This was pretty impressive considering that this book had 652 pages!



Karin Sandler (Left) with IEP Graduate
Kunihiro Miyazaki

Many book reviewers have written about the magic of Harry Potter. This series has the ability to transport us to a different world where people act very differently from the way that we do. Here, we find Quidditch matches (similar to soccer but on broomsticks), enchanted castles, and magical creatures. However, even in this magical world, children still face the same problems that children face all over the world: school exams, bullies, and problems among friends. They also have to make difficult choices and face their fears.

Finally I was at the head of the line and had the right to purchase my very own copy of *Harry Potter and the Half-Blood Prince*. As I held the book in hand, I examined the cover and fingered the pages. I looked forward to entering Harry's world one more time.

大阪—好きやねん [日本語スピーチコンテスト]

沈連姫、留学生別科

負けたらあかん♪負けたらあかん♪

皆さんも一度はこの歌を聞いたことがあるでしょう。今の私にはこの言葉が口癖になり、何よりの励ましになっております。

そして、この言葉が大好きです。

今年の3月14日、私は抱え切れないほどの希望と期待に胸を膨らませながら関西空港に降り立ちました。そして、私の大阪での留学生活が始まったのです。

中国で日本語一級試験に合格し、通訳のアルバイトを経験した私は、少なくとも日本の留学生活の中では日本語で困ったりすることは、まずないだろうとばかり思い込んでいました。

しかし、日本での初会話が「年なんぼ?」「分からへん?」「あかんわ」、聞きなれてない大阪弁に驚きつつ、固まってしまうました。生活の様々なところで使われる大阪弁、私が習ってきた標準語とはあまりにも違う大阪弁、希望に燃えていた私は絶望を感じ、日本での生活に少しずつ迷い始めました。この大阪で、日本での夢を実現できるのか、留学先を大阪にしたのは本当に賢明な選択だったのか?一日に何遍も何遍も自問自答しました。

そしてある日、偶然に聞いたこの歌「負けたらあかん、負けたらあかん〜」、そう!言葉に負けたらあかんわ!負けるもんか!と自分に言い聞かせました。

それから始まった私の生活空間、その隅々が「日本語の教室」でした。電車やレストランなど公共場所では他人の会話に耳を澄ませ、小さい声で繰り返してみたり、関西ローカルのバラエティ番組を録画して大阪弁を真似してみたり、自分なりに大阪になじむために精一杯努力しました。

アルバイトで働いていた居酒屋にはとても明るくて、元気で、おしゃべり好きのお姉さんがいました。そのお姉ちゃんは暇があれば私に大阪の面白いできごとを話してくれました。時々、間違った大阪弁を教えてくれたりもしました。「ありがとうございます」を「あざーす」と教えてもらい、それも大阪弁だと勘違いした私は、お客様にそのまま「あざーす!」と言ってしまい、皆を笑わせたこともあります。その小さい居酒屋には一台のテレビがあって、皆で野球を観ながら食事ができるので、家庭的温かさを感じられる雰囲気がありました。野球の試合の肝心な場面では皆がお箸を握ったまま固まったり、試合に負けた日は皆と一緒に落ち込んだり、勝った日は知らないお客様同士もお互い抱き合い大声で騒いだりしました。ちなみに私はその居酒屋の雰囲気が沈んでいたときも、盛り上がって

いたときも大好きでした。皆が同じ気持ちになって、阪神タイガースを応援する大阪人の心に強く共感したのです。



沈連姫、留学生別科

今は店もなくなり、一緒に働いたそのお姉ちゃんにも会えませんが、辛い時や悲しい時はその時の感動を思いだしながら自分を勇気づけています。

私の目に映る大阪はいつも人情があふれ、愛情いっぱい包まれています。体は肥えて、声は大きくても知らない人に親切にできる純粋できれいな心持ちの大阪おばちゃん、頭はパンチパーマで、怖そうな顔をしていても内面とてもまじめな大阪のおっちゃん、商業、工業都市である大阪で激しい競争の中でも明るく元気一杯で頑張っている大阪サラリーマン、OL達...日本に来たばかりの時、「どうして大阪に来たの?」とよく聞かれて「大阪には親戚がいるから」としか答えられませんでした。今なら堂々と胸を張って「大阪が大好きだから!」と答えられます。

最近、私自身も少しずつこの大阪に染まってきています。大声で値引き交渉をしたり、大阪のおばちゃんを真似して自転車で日傘を固定したり、大阪弁が口をついて出たりするようになりました。水の都、商人の街—大阪、大阪にはあふれる人情、温かい心持ちの大阪人がいます、そして、親しみのある大阪弁があります。私はこのような大阪人が大好きになり、大阪弁が大好きになり、大阪が大好きになりました。大阪、やっばすきやねん!

以上でございます!

おおきに!

Changing Career Trends in Japan

Yui Sasaki, Intensive English Program, 国際コミュニケーション学科



Yui Sasaki

What do your parents do? Are you going to go into their business or get a different job from them after you graduate from school? In the past, young people used to follow in their parents' footsteps or work at the same company until retirement. However, this Japanese traditional business style is changing and becoming more flexible day by day. It is convenient for young people to be *furitas* (temporary workers) or NEETs (people not in employment, education or training) to get more freedom; on the other hand, it leads a serious problem for others.

The first cause of *furitas* is that some young people prefer to earn enough money for themselves to enjoy just the present time without worrying about pension. Let's take an example of a Japanese bar's salary system. Kumi (not her real name) is a regular employee, and her basic salary is 183,340 yen per month even though

Note: This essay was adapted from the Final Evaluation Project this student completed as part of the Intensive English Program. The editorial policy is to preserve the integrity of the original, so no corrections have been made by the editorial staff.

she works 12 hours almost every day. Also, she should pay a lot of insurance and tax from the salary. She is supposed to pay for health insurance 2,750 yen, unemployment insurance 1,527 yen, a travel reserve fund 4,500 yen, social gathering expense 1000 yen, broad 8,000 yen, and an income tax 6,350 yen, so she can get just 166,803 yen per month. In contrast, Yui (not her real name) is a *furita* whose dream is to study in America next year, and her pay is 1,000 yen per an hour. She works about 8 hours in a day and five days a week, it means her salary is usually around 160,000 yen per month. So, she can make money to study abroad immediately. Paradoxically, it's clear that *furitas* can get a similar salary to regular workers without working the same hours. Therefore, young people think it is more convenient to get money as a *furita* without paying a lot of tax.

In addition, several experiences of some young people in social life cause increase the population of NEET. According to BBC NEWS, "While there were only 80,000 NEETs in Japan in 1997, there were at least 400,000 in 2000". NEET has four characteristics: a *Yankee* type, a Staying indoor type, a Standing paralyzed type, and a Failure type. First, the *Yankee* type is just anti-social; in other words, they think now is everything, and they don't care about the sake of appearances. Next, people who stay indoors can't have a good relationship with people. For instance, some of them were bullied while they were students. A man named Gen Kubata states he had been bullied in junior high school and at work, so he had thought that was enough. Then he stopped having relationships in the society. Third, people who belong to the Standing paralyzed type think too seriously to get a position before they graduate from school; consequently, they miss the chance to get a secure

job. Finally, the failure type of people can be employed at first, but they retire their job immediately because they lose their self-confidence. Indeed, these problems that young people might have in their lives made them part of NEETs. They are not only lazy people, but some episodes they have had interrupt them to get jobs in society.

Now, we know the basic causes of *furita* and NEET. Then what kind of problems they bring about in the Japanese society? The two biggest effects are the growth of the national pension and the government's attempts to improve the situation.

The first unforgettable effect is the increasing cost of the national pension which is used for welfare, and it benefits young people when they become older or people with disabilities. According to the national pension system, working Japanese people are supposed to pay 13,580 yen per month. However, more and more people stopped following this rule because it is hard for especially unemployed people to pay so much money for the future. Therefore, cost is getting increased 280 yen year by year. This violation of a rule makes more charges for other people who pay it properly.

The second effect of the increas-

Continued on Page 5

PolyGlot is published once a year by the Language Education Center at Osaka International University. For inquiries, contact Brad Visgatis, Director, Language Education Center, Osaka International University, 6-21-57 Tohdoycho, Moriguchi, 570-8555 Japan (Tel. 06-6902-0791 E-mail. lec@oiu.ac.jp). Issue editor: Harumi Ishino. Layout: Brad Visgatis Copyright © 2006 All Rights Reserved